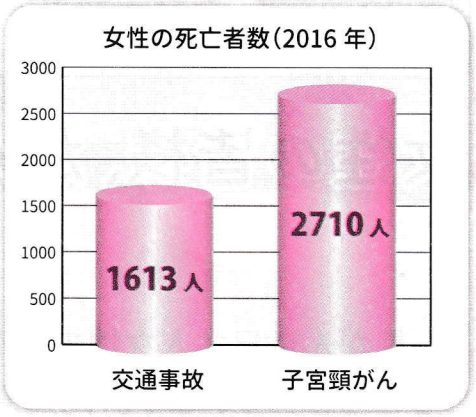
子宮頸がん検診

リスクはほとんどの女性に

子宮頸がんの主な原因は、性交渉で感染するウイルス（HPV）です。

ほとんどの女性が感染するありふれたウイルスなので、性経験が少なくてもリスクは十分あります。

また、子宮頸がんは初期症状がありません。



資料：人口動態統計 2016 年

ワクチンを受けていない方はご用心

子宮頸がんワクチンは、小学6年生から高校1年生相当の女子の定期接種です。

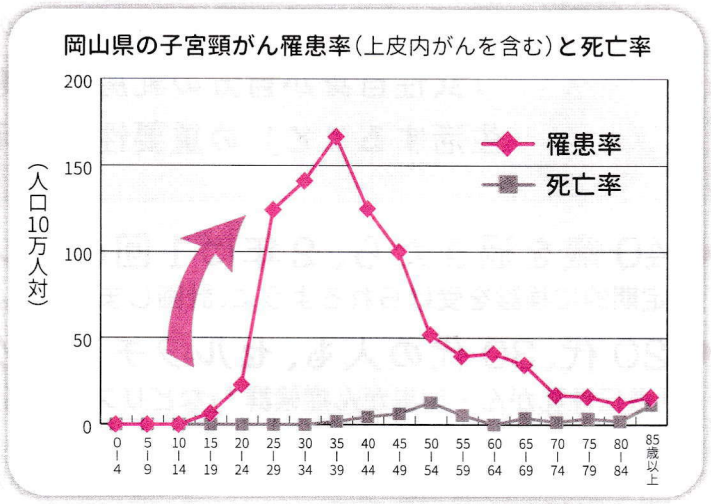
多くの方が接種しておらず、HPVに無防備な状態です。

ワクチンを接種していても、完全には予防できないため、検診は必要です。

若い女性に急増

近年では20代後半から30代に急増し、若い女性の発症率が増加傾向にあります。

早期に発見すれば比較的治療しやすく、よくなる可能性が高いがんです。しかし、若い女性は検診を受けていない方が多く、妊婦健診で発見されることも少なくありません。妊娠や出産の可能性も、女性の命も奪ってしまう病気です。検診を受けてください。



資料：岡山県におけるがん登録 2017

罹患率とは…一定期間に子宮頸がんになった人の人口に対する割合（対人口 10 万人）

20歳になったら子宮頸がん検診

- お近くの産婦人科で受けられます。
- 医師による診察（内診）で、ブラシなどで子宮の入り口を軽くこすって細胞を採取します（細胞診）。
- 数分で終わります。痛みはほとんどありません。
- がんになりそうな細胞（前がん病変）を見つけることができるため、２年に１回の検診です。定期的に受けてください。

定期的な検診を受けるために準備しましょう

乳がん検診・子宮頸がん検診は、２年に１回の検診です。**岡山市では例年６~12月に検診を実施しています。**前年に検診を受けられなかった方は、今年の検診を受けることができます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和２年度のがん検診受診率は全国的に低下しました。まん延時期を避けて検診を受けるためには、２年に１回のチャンスを計画しておきましょう。また、精密検査が必要と言われたら必ず受けましょう。

岡山市保健所健康づくり課

TEL（086）803−1263　FAX（086）803−1758